

来賓挨拶

小淵優子内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画担当）

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、少子化対策と男女共同参画を担当する内閣府特命担当大臣の小淵優子でございます。佐藤先生には、日ごろから大変お世話になっております。昨年の12月には少子化対策について皆さんにご理解いただくということで、丸の内で薬丸裕英さんとトークショーをさせていただいたのですが、その際、コーディネーターとしてご活躍をいただきました。また、昨日立ち上げた「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」にメンバーとしてお入りいただき、これからますますご活躍をいただくこととなっております。その佐藤先生から、今日のこの会にお声をかけていただきましたので、やってまいりました次第でございます。

お集まりの皆様方には、それぞれのお立場から、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、日ごろからご尽力をいただいていますことに、心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

政府としてもワーク・ライフ・バランスの推進を一生懸命やっているところでありますけれども、やはり企業の皆様に率先して頑張っていただかなくてはなりません。しかし、今は経済状況が悪く、100年に一度の金融危機と言われております。「ワーク・ライフ・バランスをお願いします」と企業の方に申し上げますと、「何を言っているんだ。こんなときにワーク・ライフ・バランスどころではない」ということを言われてしまうのですが、私はそうは思っておりません。逆にこうしたときだからこそ、ワーク・ライフ・バランスをしっかり推進していかなくてはならないのではないかと思いますし、何よりもこうした取組を進めていただくことによって、社員の皆さん方のモチベーションが全く違ってくると思います。

いろいろな取組をしておられる企業に伺いますと、例えばある企業では、しっかりと6時には仕事が終わり、夏休みも1週間以上のお休みをとることができる。他方、仕事においては、ほかのどの会社よりも一生懸命働いている、しっかりと成果を出している、そういう思いで社員の方々は仕事をしているということでした。社員の方から、「私たちはこの会社を命とっていて、絶対にほかの会社では働けない。この会社のためにこれからも一生懸命頑張っていくんだ」という思いを聞いたときに、本当に素晴らしいと思いました。

また、昨年に公表いたしました「パパの育児休業体験記」の中でもこんなコメントがあります。「育児休業を積極的にサポートしてくれた会社という味方の存在に気がつくことができたことで、今まで以上に一層仕事にも力が入るようになりました」。

この不況を乗り越えるには、何よりも人材が大切だと思います。ワーク・ライフ・バランスを進めていく意義は本当に大きいものだと思いますので、こうしたときだからこそ、経営の効率化、あるいは労働時間の短縮、事業の見直しをしっかりとすることによって、企業をさ

らに前に前に進めていただきたいと思います。ぜひ明日への投資という思いを持って、これからもワーク・ライフ・バランス推進に向けて、皆様、どうかご尽力をお願いしたいと思います。

政府といたしましても、そうした企業をしっかりと応援していきたいと思ひますし、また成功例を発信していきたいと思ひております。これからも色々な成功例をお伺いしたり、私自身さまざまな企業にお伺いしたりしながら、この国に本当の意味でのワーク・ライフ・バランスがしっかりと根づいていくように頑張つてまいりたいと思ひております。引き続き皆様方のご協力をよろしくお願ひいたします。

最後になりますけれども、本シンポジウムのご成功を心から祈念し、そして皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げましてごあいさつにかえさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。（拍手）